農業経営者育成学校
令和6年度の運営と評価

Shonai
Ecological
Agri
Design
School

SEADS

令和7年5月

鶴岡市立農業経営者育成学校

目　次

○　挨拶　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1.　報告にあたって

（1） 目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

（2） 市立農業経営者育成学校「SEADS」の概要 ・・・ 2

（3） SEADSの教育方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2.　令和6年度の活動実績

（1） 研修生の受入　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

（2） 研修カリキュラムの実践　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

（3） 修了及び就農支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

3.　令和6年度の運営と評価検証・改善

（1） 運営の評価検証　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

（2） 令和6年度の改善と自己評価

① 研修生の受入　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

② 研修の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

③ 修了及び就農支援等　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

（3） 令和7年度の改善事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

資料：令和6年度SEADS運営評価シート

挨拶

鶴岡市長　皆川　治

鶴岡市立農業経営者育成学校「SEADS（シーズ）」は、地域の農業経営者を育成するため、鶴岡市が令和２年４月に開校した、東北で唯一の市が運営する宿泊機能を兼ね備えた新規就農者向けの研修施設です。

令和７年度は開校から５周年の節目の年を迎え、これまで１期生から４期生までの２７名が研修を修了し各地域で就農しており、現在も５期生、６期生合わせて１７名の研修生が２年間の研修に取り組んでおります。

昨今の米価等の高騰により食料の安定供給への関心が高まり、農業の担い手となる新規就農者の育成・確保がますます注目されているなかで、市としてもSEADSを核とした地域農業の担い手確保に積極的に取り組んでまいります。

校長　百瀬　清昭

SEADSは令和２年の開校以来、「田畑が人を育てる」という現場主義を掲げ、県はじめ関係機関、団体のご支援を頂き、学校運営が６年目を迎えました。

今春、実習先農業者のご指導の下、２年間の実践研修を積んだ第４期生が各地で農業経営者として第一歩を踏み出しました。「新規就農よろず相談所」の相談機能を一層強化して、修了生が早期に経営確立し、地域に定着できるよう支援してまいります。

今後もスタッフ一丸となり、研修カリキュラムと就農後の支援方法の不断の改善を行い、米不足など変動する農業情勢に対応した人材育成の取組を重ねていきたいと考えております。

１．報告にあたって

（１）目的

開校から６年が経過し、SEADSをより良い研修施設にするため、自己評価し改善すること、またSEADSの運営と研修生の活動状況を幅広く知っていただくことを目的に、令和６年度の研修の活動実績や運営における評価・改善の取組みについて、報告書としてまとめました。

（２）市立農業経営者育成学校「SEADS」の概要
（Shonai Ecological Agri Design School）

①コンセプト

「有機農業をはじめ持続可能な農業の技術・経営を、座学と実習を通じて学ぶ」

②施設

旧いこいの村庄内（鶴岡市千安京田）をリノベーションした校舎兼宿舎
構造：鉄筋コンクリート造地下1階付2階建　規模：6940㎡
（施設取得：H31.3、施設改修：R1.10からR2.3、開校：R2.4）
施設：研修室（大、中、小）、個人宿舎（洗面台・トイレ付き）、
ライブラリー、共用キッチン、食堂、シャワールーム、敷地内農場

③運営体制

「農業の人材育成・確保に関する協定」を締結した、鶴岡市、JA鶴岡、JA庄内たがわ、山形大学農学部、東北芸術工科大学、株式会社SHONAI（旧YAMAGATA DESIGN株式会社）、鶴岡工業高等専門学校、庄内農業高等学校の８者によるSEADS運営管理員会を決定機関とし、鶴岡市が運営している。

④運営スタッフ

校長１名、農業技術担当３名、就農支援担当２名、研修運営担当１名、研修生募集担当１名、農政課職員１名　計９名

（３）SEADSの教育方針

①研修生の受入方針について（アドミッション・ポリシー）

国内から広く研修生を募り、本気で農業を学び営農したい人を受け入れます。

既存の発想にとらわれず、新しい価値を生み出す創造力があり、農業に対し好奇心と探求心を持ち、地域に溶け込み定住し就農する確かな意志がある研修生を求めています。

②研修の実施方針について（カリキュラム・ポリシー）

農業の技術・経営力を身に着けるため、２年間、座学と実習を通して学びます。

カリキュラムには３つのポイントがあります。

○ つくる【農業技術】 農業技術を基礎の基礎から学ぶ。
座学での理論習得はもちろん、実習を通じて
現場で活きる技術を身につけます。

○ かせぐ【経営能力】 稼げる農業の実現に必要な能力を培う。
事業計画の作成、経営管理、販路の開拓手法等を
実践者から学び身につけます。

○ はじめる【就農支援】 就農時の農地・資金・販路などの就農準備を支援。
雇用就農を希望する場合も支援します。

③ 研修の修了方針について（ディプロマ・ポリシー）

必要な講義数、研修時間を修了し、自ら希望する作目の生産技術、経営能力を習得するとともに、農業の担い手として、地域行事に積極的に参加するなど、地域住民と協調し貢献しようとする姿勢を身につけます。

（施設外観）

（市内農業者のもとでの実習風景）

（研修施設内での座学風景）

２．令和６年度の活動実績

（１）研修生の受入

第６期生（令和７年４月入校、令和９年３月修了）となる入校生を確保するため、また、広くSEADSの認知度を向上させるため、下記の活動を行いました。

○就農イベントへの出展、オンライン学校説明会の開催

首都圏等からの入校生を確保するため、東京・大阪で開催される日本最大級の就農イベント「新・農業人フェア」へブース出展し、新規就農及び移住に関心のある方にSEADS入校のメリットや鶴岡市の魅力をPRしました。

ブースでのコミュニケーションをきっかけに、SEADSに興味を持っていただいた方に対し、オンラインでの学校説明会（計２回）等を行いました。

・新・農業人フェア
　８月31日　東京（東京国際フォーラム）出展
　10月27日　大阪（グランキューブ大阪）出展
　12月８日　東京（東京ビックサイト）出展
・オンライン学校説明会
　第１回 ９月７日、第２回 12月12日

（新農業人フェアへのブース出展）

○入校体験会・個別説明会の開催

SEADSへの入校を検討している方に、より深くSEADSを知っていただくため、入校体験会や個別説明会を開催しました。入校体験会では、２日間に亘って座学体験や研修受入農家のもとでの収穫体験、個別説明会では、研修内容の紹介、校舎の説明を行いました。

・入校体験会
　第１回　７月27～28日　参加者５名
　第２回　10月５～６日　参加者５名
・個別説明会（随時）　参加者10名

（入校体験会の研修生との交流会の様子）

入校体験会、個別説明会では、参加者から生活環境がよく分かり研修生や受入農家と生の交流が出来て、より現実味が持てたという声がありました。

この取組みは実際のSEADSでの研修や生活を知っていただく大切な機会であり、入校願書提出までに必ず現地での参加をお願いしています。

○ＰＲ活動

市民や庄内地方在住の方、関係団体等に広くSEADSの取組みを知っていただき、入校生を募集するため、以下の方法で周知・PRを行いました。

・県内関係機関、関係団体への訪問PR
　（庄内各JA、高等学校、農業法人、産直施設等）
・つるおか大産業まつりへの出展
・SEADSニュースの発行（12回発行）

（大産業まつりへの出展）

（２）研修カリキュラムの実践

研修は、【座学】で基礎知識や経営等を学び、【実習】で受入農家やSEADS農場の現地で学ぶ２年のカリュキュラムです。令和６年度は、農業機械講習に圃場でのトラクター実践操作演習を取り入れるなど内容の充実を図りました。また、研修生には研修満足度のアンケートを実施し、出された要望や意見を次年度以降のカリキュラムに反映させています。

座学：土壌肥料（6/13）

「土壌肥料」の講義では、２年生が土壌の吸着性を比較観察しました。
雨水など、濁った水や色のついた水が土の中を通ると、きれいな水になるのは土の「吸着性」という性質によるものですが、それぞれの土壌による吸着性の違いを観察しました。

実習：農業機械講習（10/31）

「農業機械講習」の講義では、農機メーカー・農業委員会のご協力のもと、計４台のトラクターを用意していただき、無段階変速が可能な最新式のトラクターの試乗に加えて、作業機の着脱方法等を学ぶことができました。

視察研修（9/19）

１・２年生が合同で最上総合支庁と県園芸農業研究所を視察しました。
最上地域では近年、土地利用型野菜の生産が拡大しており、その支援にあたる産地研究室での栽培技術開発の現場を見学しました。園芸農業研究所では、シャインマスカットの栽培研究について最前線の説明を受け、新たに知見を広げました。

受入農家での実習（通年）

研修生は市内各地で実習を行い、農業技術のみならず、農家の生活リズム、出荷調整や作業をスムーズに行うコツなどを身に付けています。
夏場は猛暑日が連日続きますが、体調に気をつけながら学びを深めています。

≪１年生の研修カリュキュラム（Ｒ６）≫

○方針　農業の基礎を座学・実習等を通じて幅広く学び、自分が目指す就農形態を考えるためのカリキュラムを設定

分類	大項目	中項目	記号	小項目	講師	コマ数	時間数
A ガイダンス	1 オリエン テーション	1 オリエンテーション	1	入校式･修了式	SEADS事務局	8	16
			2	鶴岡市の紹介	農政課他	2	4
	2 講話	1 講話	1	協定代表者･校長講話	協定代表者、SEADS校長	7	14
			2	経営者講話	地元経営者他	5	10
B 農業経営	1 販売戦略	1 販売戦略	1	概要	㈱SHONAI	2	4
			2	市場流通	㈱SHONAI	2	4
			4	広報	外部講師	2	4
	2 経営計画	1 営農計画書作成	1	営農計画書作成Ⅰ	農業技術普及課、日本政策金融公庫、JA、SEADS事務局	19	38
		2 作業計画書作成	1	作業計画書作成Ⅰ	SEADS事務局	3	6
	3 経営管理	2 財務管理	1	農業経営実践講座（複式簿記Ⅰ）	農業技術普及課	12	24
		3 農業関係法令･認証コンプライアンス関係	1	農産物検査法	農業技術環境課	2	4
			2	認証（特栽･有機、GAP）	農業技術環境課、SEADS事務局	5	10
		4 労務管理	2	労務管理	労働基準監督署	1	2
C 農業技術	1 持続可能な農業の基礎理論	1 農業技術概論	1	農業技術概論	外部講師	4	8
		2 植物生理	1	植物生理Ⅰ	外部講師	10	20
		3 土壌肥料	1	土壌肥料Ⅰ	SEADS事務局	3	6
		4 作物保護	1	作物保護Ⅰ	SEADS事務局	6	12
		5 施設園芸	1	施設園芸	外部講師	2	4
	2 栽培技術	1 水稲栽培	1	水稲栽培Ⅰ	SEADS事務局	7	14
			2	農業経営実践講座（稲作）	農業技術普及課	10	20
			3	視察研修Ⅰ（水稲）	SEADS事務局	6	12
		2 野菜･花卉栽培	1	野菜･花き栽培Ⅰ	SEADS事務局、産地研究室	15	30
			2	農業経営実践講座（野菜）	農業技術普及課	12	24
			3	農業経営実践講座（花卉）	農業技術普及課	8	16
			4	視察研修Ⅰ（野菜･花き）	SEADS事務局	8	16
		3 果樹栽培	1	果樹栽培Ⅰ	農業技術普及課	2	4
			2	農業経営実践講座（果樹）	農業技術普及課	8	16
			3	果樹栽培実習	庄内農業高校	18	36
	3 SEADS農場実習	1 SEADS農場実習	1	SEADS農場Ⅰ	SEADS事務局	44	88
	4 農業機械実習	1 農業機械実習	1	農業機械実習	農機メーカー、生産農家･法人	15	30
D 就農･定住支援	1 就農相談	1 就農相談	1	個別面談	SEADS事務局	12	24
	2 補助制度等	1 補助制度等	1	農地･資金･補助制度	県、農政課、農業委員会	9	18
	3 農業者交流	1 農業者交流	1	農業者交流	農業経営実践講座生、農業士会、JA青年部、SEADS修了生他	12	24
	4 健康相談	1 健康相談	1	こころとからだの健康相談	健康課他	5	10
A～D 座学計						286	572
E 実習計					受入農家	464	928
総計						750	1,500

≪２年生の研修カリュキュラム（Ｒ６）≫

○方針　自分が目指す形の就農に向けて必要な知識・技術を学び、就農準備を加速させるためのカリキュラムを設定

分類	大項目	中項目	記号	小項目	講師	コマ数	時間数
A ガイダンス	1 オリエン テーション	1 オリエンテーション	1	入校式･修了式	SEADS事務局	7	14
	2 講話	1 講話	1	協定代表者･校長講話	協定代表者、SEADS校長	4	8
			2	経営者講話	地元経営者他	5	10
B 農業経営	1 販売戦略	1 販売戦略	3	営業	㈱SHONAI	2	4
			4	広報	外部講師、㈱SHONAI	6	12
			5	デザイン	東北芸工大	4	8
	2 経営計画	1 営農計画書作成	2	営農計画書作成Ⅱ	SEADS事務局	28	56
		2 作業計画書作成	2	作業計画書作成Ⅱ	SEADS事務局	13	26
		3 就農準備	1	就農準備	SEADS事務局	68	136
	3 経営管理	1 生産･販売管理	1	生産･販売管理	㈱SHONAI	2	4
		2 財務管理	2	複式簿記Ⅱ	農業技術普及課	2	4
			3	資金調達	㈱SHONAI	4	8
		3 農業関係法令･認証コンプライアンス関係	3	契約書	㈱SHONAI	1	2
		4 労務管理	1	採用	㈱SHONAI	1	2
			2	労務管理	労働基準監督署	1	2
		5 農業法人の設立と経営	1	法人設立	山形県農業会議	2	4
		6 食と農のビジネス塾	1	食と農のビジネス塾	地域定住農業者育成コンソーシアム	22	44
C 農業技術	1 持続可能な農業の基礎理論	2 植物生理	2	植物生理Ⅱ	外部講師	10	20
		3 土壌肥料	2	土壌肥料Ⅱ	外部講師	10	20
		4 作物保護	2	作物保護Ⅱ	外部講師	8	16
	2 栽培技術	1 水稲栽培	4	水稲栽培Ⅱ	SEADS事務局	8	16
			5	視察研修Ⅱ（水稲）	SEADS事務局	2	4
		2 野菜･花卉栽培	5	野菜･花き栽培Ⅱ	SEADS事務局、産地研究室	24	48
			6	視察研修Ⅱ（野菜･花き）	SEADS事務局	4	8
		3 果樹栽培	4	果樹栽培Ⅱ	産地研究室	3	6
		4 農産加工	1	農業経営実践講座（農産加工）	農業技術普及課	10	20
	3 SEADS農場実習	1 SEADS農場実習	2	SEADS農場Ⅱ		19	38
	4 農業機械実習	1 農業機械実習	1	農業機械実習	農機メーカー、生産農家･法人	13	26
D 就農･定住支援	1 就農相談	1 就農相談	1	個別面談	SEADS事務局	12	24
	2 補助制度等	1 補助制度等	1	農地･資金･補助制度	県、農政課、農業委員会	4	8
	3 農業者交流	1 農業者交流	1	農業者交流	農業経営実践講座生、農業士会、JA青年部、SEADS修了生他	12	24
	4 健康相談	1 健康相談	1	こころとからだの健康相談	健康課他	5	10
A～D 座学計						316	632
E 実習計					受入農家	434	868
総計						750	1,500

≪受入農家での実習（Ｒ６）≫

○１年生　野菜と水稲など複合経営の受入農家から栽培の基礎を実習

No.	実習先	研修作目
1	大泉	えだまめ・ミニトマト・ふきのとう・水稲
2	京田	えだまめ・ミニトマト・なめこ・水稲
3	京田	水稲・えだまめ
4	西郷	メロン・ミニトマト・トルコギキョウ・水稲
5	西郷	メロン・いちご・水稲
	西郷	ミニトマト
6	西郷	メロン・ミニトマト・水稲
7	西郷（実家）	メロン
8	藤島	水稲・大豆

○２年生　各々の就農を見据えた作目での実習

No.	実習先	研修作目
1	西郷	メロン・ミニトマト・ブロッコリー・水稲
2	西郷	メロン・ミニトマト・さといも・ねぎ・水稲
3	藤島	大玉トマト・ねぎ・水稲
4	藤島	大豆・ねぎ・水稲
5	櫛引	水稲・ねぎ・いちご
6	朝日	そば・赤かぶ・行者にんにく・水稲
7	三川町	メロン・白かぶ・水稲

（３）修了及び就農支援

２年生は翌年度からの自身の就農に向け、生産したい作物の生産技術を実習等で身に付け、農地や住居の取得に向けてSEADS就農支援アドバイザーとともに関係者と協議を重ねました。合わせて自身の就農計画を立案し、市、ＪＡ、農業委員、庄内総合支庁、金融機関等のアドバイスを得ながら新規就農の準備を整え、第４期生７名が修了しました。

また、修了後は「新規就農よろず相談所」として、修了生等の営農の課題に寄り添います。

○新規就農よろず相談所を開設

令和６年度４月より、SEADS内に「新規就農よろず相談所」を開設しました。

SEADS修了生はじめ、市内外に在住する新規参入、親元就農、雇用就農を含めた地域内の新規就農者の感じる疑問や不安に寄り添い、営農指導や支援制度等の情報提供、必要に応じて県、JA、農業委員会などと連携したサポートを行い、経営安定化まで伴走支援していきます。

（R6入校式時(4.4)に新規就農よろず相談所を開設）

○修了生との情報交換会

10月28日に研修生が独立自営就農の修了生のほ場や修了生の雇用先の農業法人を訪問し、情報交換を行いました。

修了生からの新規就農してからの課題や研修中にやっておくべきことなどのアドバイスは、研修生にとって大変参考になった様子でした。

（修了生の圃場見学の様子）

○２年生(第４期生)修了式

３月14日に令和６年度修了式を開催し、第４期生７名が修了証書を受け取りました。

修了生は７名は、内６名が独立自営就農、１名が親元就農で、水稲、メロン、トマト、さといもやねぎなど、それぞれが目指す品目で農業をスタートします。

修了生代表の佐藤昌人さんが「SEADSでの学びを糧に思い切り農業に挑戦していきます。」と決意の言葉を述べました。

（校長から修了証書を受け取る4期生）

３．令和６年度の運営の評価検証・改善

（１）運営の評価検証

令和２年に開設し現在に至るまでの間、研修運営ノウハウや、農業技術指導、農地や住居等の就農支援について、県農業技術機関やJA等の人的協力を得て、市のスタッフが主体的に研修を運営できるようノウハウの「内製化」を進めてきました。

SEADSの事業計画や施設運用等を着実に効果的に実施するために、令和５年度より運営の評価検証を本格運用しています。

３つの評価の区分（受入、研修、修了）ごとに、数値化や実施の成否等で定量的に評価できる成果目標を置き、毎年度その結果及び改善策を『運営評価シート』として整理し、計画、実行、評価、改善のPDCAサイクルで検証していきます。

SEADSでの自己評価、市役所全体の内部評価、そして行財政改革推進委員会による外部評価を経て、より良い運営を継続的に行っていきます。

（２）令和６年度の改善と自己評価

①研修生の受入

【改善】

入校ニーズへの速やかな対応及び研修生の早期確保のため、１次募集期間を７月１日～８月３１日に設定するとともに、募集期間を追加し４次募集まで実施。

【評価】

就農イベント参加、入校体験会等を計画通り実施できた。募集開始時期を早め（9月→7月）、募集期間を追加（3次→4次）したことで、１次募集から出願があり、１次募集から４次募集で計10名の出願があった。（内、１名辞退）

②研修の実施

【改善】

R5に導入した農機メーカーによる機械操作講習会に加え、SEADS農場での操作時間を確保するとともに、地元法人や農業委員会の協力を得て、圃場での大型農業機械操作の実践研修を実施。

【評価】

カリキュラムは計画通りの研修を行うことができ、研修の満足度も4.4以上の評価となった。引き続き、研修生の要望等を踏まえ、更なる研修内容の充実に向けて協議を重ねていく。

③修了及び就農支援等

【改善】

修了生等への営農相談にきめ細かく対応するため、令和6年4月に「新規就農よろず相談所」をSEADS内に設置し、営農指導や補助事業等の情報提供などを実施。

【評価】

１年生は全員が年次課程を修了し、２年生も全員が修了し就農することができた。２年生の農地・住居についても、受入農家等の協力を得ながら、独立自営就農の６名の農地、新たな住居を必要とした２名の住居を確保することができた。

（３）令和７年度の改善事項

令和６年度の取組みの評価を踏まえて、今後さらに重点的に強化すべきこと、見直すべきことを検討し、次年度の活動において実践します。

また研修生や修了生の生の声を生かすことが重要なことから、研修生に「生活環境に対する満足度」、就農後１年が経過した修了生に「研修内容が就農後も役立っているか」のアンケート調査を実施し、その結果をもとに今後の運営改善に活かすこととしております。

【研修生の受入】

・Ｒ７年度は開校５周年であることを活かし、地元の市民や農家、自治会や経営者等多くの方にSEADSを認知し応援してもらえるよう、活動を強化していく。

【研修の実施】

・受入農家からの声を受け、作物の生育ステージの把握や適期作業を習得するために、実習を「月・火・水」から「月・水・金」に変更する。

・東北農林専門職大学と連携し、同大学の「トラクター運転技術研修（大型特殊（農耕用））」を１年生のカリュキュラムに必修として組み込む。

【修了及び就農支援等】

・修了生（特に独立就農者）への圃場巡回や面談を定期的に実施し、各々の経営課題の解決に向けた取組への伴走支援を強化していく。

【情報発信】

・開校から５年が経過したことから、Ｒ６年度に設置したSEADS情報発信力向上プロジェクトのメンバーや修了生、協定者とも連携し、５周年記念イベントを開催し、入校希望者の増加や市民理解の向上につながる取組を実施する。

令和６年度 農業経営者育成学校SEADS 運営評価シート

研修生受入

【R6改善事項】
入校ニーズへの速やかな対応及び研修生の早期確保のため、１次募集期間を７月１日～８月３１日に設定するとともに、募集期間を追加し４次募集まで実施した。

			R5	R6	達成度
就農イベント参加 ・オンライン学校説明会開催回数	回	計画	5	5	A
		実績	6	5	
入校体験会・個別相談会参加者	人	目標	20	20	A
		実績	20	20	
入校者数 ※実績は翌年度４月の入校者数を記載	人	目標	10	10	B
		実績	8	9	

【評価】就農イベント参加、入校体験会等を計画通り実施できた。募集開始時期を早め（9月→7月）、募集期間を追加（3次→4次）したことで、１次募集から出願があり、１次から４次募集で10名の出願があった。（内、１名辞退）

研修の実施

【R6改善事項】
R5に導入した農機メーカーによる機械操作講習会に加え、SEADS農場での操作時間を確保するとともに、地元法人や農業委員会の協力を得て、圃場での大型農業機械操作の実践研修を実施した。

			R5	R6	達成度
平均履修時間（１年生） ※座学・実習を１年間受講した研修生のみが対象	h	目標	1,500	1,500	B
		実績	1,426	1,429	
平均履修時間（２年生） ※座学・実習を１年間受講した研修生のみが対象	h	目標	1,500	1,500	B
		実績	1,496	1,459	
カリキュラム満足度（5段階評価ｱﾝｹｰﾄ）	目標		4.5	4.5	
１年生【座学】	点		4.5	4.4	B
【実習】			4.5	4.8	A
２年生【座学】			4.0	4.6	A
【実習】			4.4	4.6	A

【評価】カリキュラムは計画通りの研修を行うことができ、研修の満足度も4.4以上の評価となった。
引き続き、研修生の要望等を踏まえ、更なる研修内容の充実に向けて協議を重ねていく。

研修修了

【R6改善事項】
修了生等への営農相談にきめ細かく対応するため、令和6年4月に「新規就農よろず相談所」をSEADS内に設置し、営農指導や補助事業等の情報提供などを実施した。

		R5	R6	達成度
研修生数（３月３１日現在）	人	13	15	
１年生		7	8	
２年生		6	7	
修了要件達成者（1,200ｈ/年以上） ※座学のみ研修生の修了要件は、座学時間の80%以上の履修とする。		13	15	
１年生　（研修生数/修了要件達成者数）		7	8	A
２年生　（研修生数/修了要件達成者数）		6	7	A
修了者数　（研修生数/修了者数）		6	7	

【評価】１年生は全員が年次課程を修了し、2年生も全員が修了し、就農することができた。
２年生の農地・住居についても、受入農家等の協力を得ながら、独立自営就農の６名の農地、新たな住居を必要とした２名の住居を確保することができた。

A:100%以上
B:80%以上100%未満
C:50%以上80%未満
D:50%未満

達成度	A	B	C	D
達成項目数	7	4	0	0
達成割合	64%	36%	0%	0%

その他	
	【R6改善事項】 修了生には、新規就農よろず相談所で営農に係る相談に対応するとともに、プッシュ型で営農相談を実施し、現在の課題や健康状態などを聞き取りした。

		R5	R6	備考
居室利用（全32室）	活用室数	12	10	
	入居者数	12	11	
生活環境に対する満足度（5段階評価ｱﾝｹｰﾄ）	点	4.1	4.3	R5より実施
研修内容が就農後も役立っているか(5段階評価ｱﾝｹｰﾄ)	点	2.3	4.4	R5より実施 R6回答は2期生
就農者累計	人	20	27	各年度4月1日時点
認定農業者累計（就農５年後以降）	人	－	－	R8から記載

【評価】「生活環境に対する満足度」は概ね良い評価となり、就農から１年が経過した２期生に実施した「研修内容が就農後も役立っているか」のアンケート結果についても、R3年度に運営体制や研修内容の見直したことにより、評価に改善がみられた。

参考				
運営経費（決算）	千円	39,003	38,413	
特定財源（補助金、授業料等）	千円	7,349	5,964	補助金　：2,757千円 授業料等：2,959千円 その他　：　248千円
一般財源	千円	31,654	32,449	

プロモーション等の委託業務について職員による内製化や業務の精査を進め、運営経費を約590千円削減した。アドバイザーの人件費については、国の「新規就農者育成総合対策事業」を活用しているが、職員の交代により勤務日数が減少した（週4日→週2日）ため、特定財源（補助金額）が減少した。

≪R6評価総括≫

修了者数（４期生）は７人全員が研修を修了、内６人が農地・住居を確保し独立就農、１人が親元就農した。Ｒ６入校者数（５期生）は10人の募集に対して８人の結果だったが、Ｒ７入校者（６期生）は９人確保することでき、引き続き募集・確保策を強化していく。

受講満足度は、２年生では目標の4.5点を超えている一方で１年生の座学のみ目標にわずかに達しなかった。実習については、受入農家より「月～水」が実習の現状のカリュキュラムでは作物の生育状況に即した適期作業を学べないという意見もあり改善が必要。修了生に対しては、営農相談等を通し、各々が抱える課題に寄り添う活動を強化する必要がある。

また、ＪＡ青年部長、市行財政改革委員、修了生などで構成する「ＳＥＡＤＳ情報発信力向上プロジェクト」を立ち上げ、SEADSへの一層の市民理解と関係者の拡大を図るための意見交換を実施し、会議での意見を踏まえ、ふるさとCM大賞への出展やWEBサイトの見直し等を実施した。

≪R7の改善事項≫

【研修生受入】

・R7は開校５周年であることを活かし、地元の市民や農家、自治会や経営者等多くの方にSEADSを認知し応援してもらえるよう、活動を強化していく。

【研修の実施】

・受入農家からの声を受け、作物の生育ステージの把握や適期作業を習得するために、実習を「月・火・水」から「月・水・金」に変更する。

・東北農林専門職大学と連携し、同大学の「トラクター運転技術研修（大型特殊（農耕用）」を１年生のカリュキュラムに必修として組み込む（免許未取得者のみ）。

【研修修了】

・修了生（特に独立就農者）への圃場巡回や面談を定期的に実施し、各々の経営課題の解決に向けた取組への伴走支援を強化していく。

【その他】

・開校から５年が経過したことから、R6に設置したＳＥＡＤＳ情報発信力向上プロジェクトのメンバーや修了生、協定者とも連携し、５周年記念イベントを開催し、入校希望者の増加や市民理解の向上につながる取組を実施する。